

- ・ナビゲーターの必要性、役割は理解できました。がん相談員との役割がもう少しはっきり出てくれば良いのですが。始まったばかりなので難しいですね。(特に医療職の場合は・・・)
- ・デモンストレーションの内容からは、がん専門相談員とほぼ同等のレベルを求められていると思いました。とても難しい印象を受けました。
- ・どこに必要なかを明確にしてほしい。
- ・ナビゲーターの必要性や、役割については理解できましたが、資料の P.54 の図を見るに、今ひとつ「ナビゲーターとして働く図」が見えにくいように思いました。一体どこで?どんな風に?など・・・ナビゲーターとして働ける場の整備が同時になされているのか(けれどボランティア?)自分の中でうまくまとまらない。という感じです。その辺りが曖昧なセミナーだったと思います。お金をかけてとるだけ有効な認定なのか。今後またセミナーなど受けさせて頂きながら検討させて頂きたいと思います。
- ・申請の資格の(4)と上記の件がマッチしない様な気がします。地域で声を拾って・・・とのことですが、とにかくナビゲーターの立ち位置(活躍場所)がわかりにくい・・・どこを想定しているのか今後HPなどのQAなどで教示して頂けるとありがたいです。
- ・がんナビゲーターがどこで相談を受けるようになるのかわかりませんでした。
- ・開催場所が、少ないのもう少し多くの都市で行ってほしい。
- ・研修地が遠く東京で開催することを検討していただきたいと思っています。
- ・ナビゲーターになった場合、何かトラブルがあった場合の責任所在、ナビゲーターを守るシステムがないと逆にナビゲーターや患者を不安にさせる可能性がある。
- ・何らかの弊害がでないか、どこに責任がかかるのかなどが不明であった。
- ・がん診療連携拠点病院との協力が必須です。(国立がん研究センターのがん対策情報センターの本システムへの認識も全く不十分です。
- ・学会主導のシステムと厚労省・国が手動のシステムの協調を最初から十分に考慮しないと、現場が困惑し拡大がさまたげられることになりかねません。
- ・連携も含めて地域のコミュニティでのネットワーク構築を一緒に行っていけばよいと思います。
- ・医療連携手帳を患者さんに持って頂くシステムを作られてもよいと思います。その際は、いくつかの連携手帳があるので統一を促して頂きたい。
- ・地域の身近な人のコミュニケイとが広がっていくことをながっています。
- ・がん患者さんやその家族は、基本的に病気のことや診療に関する知識や情報を求めることが多く、MSWでは、対応できないことが多い。現に今の職場(連携拠点病院)では、がん相談は、NSのみが対応している。このナビゲーターも、NS等医療職がすべきなのではないかと感じた。病院との連携がうまくとれるか、システム作りが難しそう。
- ・病院以外の場にナビゲーターの方がいる方がいいのではとも思いました。
- ・がん医療ナビゲーターという言葉を知りました。
- ・現在の専門分野以外に手を広げるキャパはなかなか見つけられないくらい業務に追われているので、自ら進んで、とは決心がつかない。ただ、ナビゲーターへの全面的協力はできるので自分の専門分野で協力したい。
- ・医療者がナビゲーターの知識を持ち、それぞれが、その場で必要な情報を伝えていけたらいいのでは。

- ・各地域のがん拠点病院、それ以外の病院、各施設、薬局、行政、住民とそれぞれの分野でナビゲーターが配置され横のつながりが密になれば、ナビゲーターの活躍は期待できると思いました。
- ・このナビゲーター制度について、Dr.の方は、専門医に例えて「別の報酬はない」と仰っていましたが、専門職の上乗せ資格でのお話と、連携（コーディネート）スキルでの新たな資格であるというはなしとの整理をされていない立場でのご意見であると感じました。
- ・病診連携や医療介護連携での指導・カンファレンス科への診療報酬の加算化であるとか、がん拠点病院等の施設基準的なものへのカウントに考慮して頂くよう、学会として今後働きかけの努力をして頂きたいと思います。
- ・e-learningの難易度によっては、ソーシャルワーカーの合格率は低いと予想しています。（社会福祉の国家資格は医学の知識のバックグラウンドが乏しい）
- ・身近にがんになった家族がいるので非常に興味があります。退院後の家族の状況は実際、家族をとおして初めて知った次第です。おそらく困っている人は多いと実感します。
- ・がんサロンで世話をしている患者本人です。ピアサポーターとしてのスキルアップをしたいと思っていて参加しましたが、ナビゲーターとしては、かなりの専門知識と訓練が必要ではないかと感じました。（次回の研修を受けるかどうかについて即答できかねます。）
- ・何らかの形で医療・介護に関わっている方を想定しての研修のような気がしました。
- ・協力体制をもらえるようなアプローチを各施設にしてもらいたい。
- ・コミュニケーションの大切さがよくわかりました。基本的10のスキルの受容と相談者を否定しないの違いが判りませんでした。
- ・新しい資格？の名前（ナビゲーター）が増えることで、患者さんはじめ一般の人々が混乱してしまうのではないかと不安
- ・がん相談員に求められている役割と同じように思います。知識を深めるためのツールになるのでしょうか。
- ・必要性、役割など、お考えはよく理解できるのですが、もう少し具体的な絵が見えるともう少しわかりやすいのかなと思います。
- ・同じ場所に様々な窓口があると、患者さん、家族等相談者が混乱するのではないかと。
- ・ナビゲーター制度を受ける費用が高い。個人負担であれば、無料にするなどにした方が受ける人が増えると思う。
- ・序論としてとてもわかりやすい説明でした。ナビゲーター制度の詳細がまだ明確でなく、今後の情報提供を期待しています。
- ・成人、老人が中心だと思いますが、e-learningについては小児の内容も入れてほしい。
- ・拠点病院以外には必要な職種と思います。
- ・医療関係、国家資格、有資格者に限った方が良いと思われれます。医療事務、メディカルクラーク等まで広げると質の確保が厳しいと思われれます。
- ・病院とナビゲーターとの継がり（具体的に連携方法）が見えない印象（まだこれからだから？）
- ・ナビゲーターを支援・サポートする体制を地域でつくり協働することが大切だと思います。
- ・今回気軽に参加したが、病院側に相談してこなかったのが継続できるかわからない。
- ・早めに日程を知りたい。（休みの希望が2か月前でないと取れないため）

- ・がん医療に対するナビゲーターは治療→腫瘍内科 経済→MSW が想像しやすいです。
- ・他の職種がどう関わっていけばよいか。また、職能が生かせるか不安です。
- ・病院で、臨床試験コーディネーターと看護師として働いているものです。この資格を取ってしまうと、医療介入ができなくなるので、現在の仕事内容ができなくなるのではないかと不安を感じています。  
(例えば IC 補助 (臨床試験)、採決、診療介助など)
- ・職場の環境も厳しく、兼任して働いている部分もあり、研修に行っている間の期間の代行をする人がいないこともあり、職場を変えてでも、認定をとった方が良いのか考えます。この資格を選んだ場合でのセクションがなく、上司の理解 (必要度が得られるかが課題と考えます。)
- ・対象がよくわからない内容だった。
- ・どんな職種の人でもこの制度に関わることは良いと思うのですが、ナビゲーターに適する職種というものはあると感じました。
- ・がん相談に行けずに苦しんでいる人たちを見出す必要があると感じた。
- ・ピアサポーターでも、ナビゲーターになれると聞き、安心しました。肺癌術後 13 年目です。  
患者会に参加し役に立ちたいと思っています。
- ・相談支援に日頃関わる中で、情報収集し、さらに自分で理解し、相手に正確に伝えることの重要性和ともに困難さを感じています。このコーディネーターになった方が、自分の本来の業務とは別にボランティアで提供できるような形に収集、理解、更新を行っていくことができるのか (時間的、マンパワー的にも) 疑問です。
- ・患者さんの支援を行うのは病院だけでは困難な場合が多い。地域の支援者 (かかりつけ医、ケアマネージャー、施設相談員 etc がもっとがんの知識を持って一緒に支援できるようになると、患者さんにとってよりよい「がん医療」が行えるのではないかと思いますので、期待しています。
- ・自分自身がまだまだ未熟ものなので、本日の内容を聞き、前途多難だと思いました。  
MSW との連携には常に心がけているので、自己のスキルアップをしていかないとと思いました。  
患者、家族の不安を少しでも軽減できるよう今後努めていきたい。
- ・所属施設でナビゲーターの必要性を理解してもらうことは難しい。  
もう少しメジャーになり、宣伝をしっかり行って (特に拠点病院では) 必要な資格だという認識をもってもらえるよう働きかけて欲しい。
- ・ナビゲーターの案内を拠点病院に出す際に、教育セッション参加者の名簿も出してほしい。
- ・大事な役割というか医療者でもできないといけないことと思うが、がんナビゲーターという新たなものを作ることが必要なかがよくわかりませんでした。
- ・医療従事者でない人がなるのは難しいのではないか。
- ・ナビゲーターのメンタルフォローが大切 (暴言を吐かれる、自分のことのように思っ苦しむ可能性 → 対処できるスキルが重要)
- ・是非取りたいと考えています。
- ・今後、必要な立場であると考えています。資格要件の拡大をお願いします。地域ケアの一部として活動していきたい。
- ・ナビゲーターのスーパーバイザーも作ってください。(心をあつかうのであればナビゲーターのフォローもいる。)

- ・しっかりした「職」として雇い入れされるようなものにして頂ければ目指す方が増えるのでは。
- ・ナビゲーター同士のつながりも欲しいです。
- ・スキルアップトレーニングを開催して頂くことで、ナビゲーター制度が量から質へと移行していくと思う。
- ・IC への同席をナビゲーターが求められた場合は、どのように対応するのか。
- ・がん相談支援センターや、ナビゲーターの方々が、専門分野に対する質問に対しては主治医の先生に相談するよにとのことでした。しかし、主治医の外来診療の中で、なんでも相談できる体制はどのように取り組まれているのか。待ち時間も長く、医師が患者の声に耳をかたむける体制はまだ課題があるように思う。
- ・どんな職種の人でも癌ナビゲーターの研修をうけて資格が取れるとのことだが、知れば知るほど専門性が必要になってくるのではと思った。
- ・ナビゲーターが通常業務を行う中でどのように専任として活用していけるか病院として、考えなければならぬと思いました。
- ・がん拠点病院にて医師事務作業補助者として働いています。また、がん患者の家族でもあり、この数年は様々ながんの情報を調べ勉強してきました。臨床試験の情報も患者が探しにくく感じ、探した経験もあるため、非常に興味深く参加させて頂きました。(私はまだ若いので情報を知らべることが、例えば両親世代 or 専門的な知識がない状態では非常に難しいとおもうので)
- ・患者側の経験もあるため、目指すものは、とても素晴らしいとおもうが、同時に難しい仕事だとも感じます。
- ・今後の受講日程、認定後の仕事内容がよくわからなかった。
- ・がんと就労支援に貢献したいと思います。(キャリアコンサルタント 国家資格 公共職業安定所で相談員経験を活かしたい。
- ・歯科診療に対する必要性もご理解いただきたいと思います。連携事業に積極的に取り組む様、歯科医師会も強く働きかけています。
- ・生命保険会社の人が、なりたいという人が増えそうな気がしました。
- ・ネットワークに入れるかが少し不安です。
- ・コミュニケーションスキルは、すごく興味があります。
- ・がん診療ネットワークを作ることが第一の目的であることはわかりました。
- ・がん治療において、生活に支障がでる内容を分離して整理するとよいと思う。
  - ・医学上のこと (副作用に対し、他科を紹介、受け入れ) →医療資格者が他科とネットワーク
  - ・社会上のこと (仕事の内容や時間、家族介護など) →支援コーディネーター
  - ・生活上のこと (治療費、入所施設など) 支援コーディネーター
- ・この位置づけならば「がん医療ナビゲーター (看護)」「がん医療ナビゲーター (放射学)」「がん医療ナビゲーター (薬剤)」等、細分化、専門化したものがあってもよいのではないのでしょうか。
- ・一人の患者さんの人生を含めた支援が必要で、この研修の内容をもっと深めていって、病氣 (がん) になっても苦痛 (社会的スピリチュアル) の少なくして悩みを減らせていくべきだと思う。
- ・正しい対応が出来るよう、その人をかこむ支援者が、しっかり情報共有して、連携することが大事 (特にがんの状況がどの段階にあってどういう治療が適切なのか何を望んでいるのか)

- ・昨年大腸がんの手術を受けました。自分ががん患者になって闘病を経験してがんナビゲーターを目指したいと思っていますが、医療関係者でもなく、それに近い資格も何も持っておりません。今日のセミナーの中で、個人の得意な技を持ち寄って・・という話がありましたが、その技も持ちえていませんでこのままセミナーを受講していったいいいものかどうか考え込んでしまいました。がんナビゲーターの資格を取得して、自分の仕事との両立ができるのか、イメージがまだわいていない状態です。志はあるのですが・・・。
- ・かなりハードルが高い研修で内容も濃い値段も高いし、身につけても活動の場がそんなにないようにおもうし、地域か病院など受け入れ側の理解がまだまだ不足している中で養成だけでも人材がだぶつく気がする。
- ・がんナビゲーターはボランティアというお話でしたが、現在、治療中で無職。仕事を探しながらピアサポーターの講習を受けてます。今後、私のような立場の者がナビゲーターとしてどうお役に立てますか。自分の生活もあるため、完全ボランティアだとおそらくムリがでます。医療受持者と違い、一般人はこれを仕事としてやっていくことができるのか。ボランティアとしたらどのような場所で、いつ、ナビゲーターの仕事をするのか？本来の仕事の休みの日なのか？そのような具体的なことが知りたいです。でないと、研修は受けたいけど、今後の不安です。
- ・患者の満足度はきちんと評価されているのか？「がん」と診断されているだけで、不満であると思われる。そもそも低い満足度のところに、過度にアプローチするのは、危険でもあると思われる。「どの病院がいいのか？」などはナビゲーターが介入できることではない。日本人の自己決定能力を高めることの方が大切だと思う。
- ・十分な応答決定支援や、患者さん、ご家族の悩みがどこまで充分に聞いているのだろうか、まだまだ言えずに心に秘めておられる方もたくさんおられるのではないかと感じております。
- ・ナビゲーターができること、出来ないことの場面では、それぞれの資格経験もあるのでどこまでできるとかできないとか判断されるのかなと感じました。
- ・自分の所属している医療機関に受診している相談者に対しては、具体的な情報を提供や相談者の情報を確認する方法もあると思うが、他の病院の相談者に対して、どのような情報提供ができるのか具体的なイメージがわかなかった。
- ・相談者側の情報だけで正しい判断が可能なのか？（例えば医療側とのトラブルをすでにある場合に介入が困難かと思いました。）
- ・金額もボランティアにしては高いのでは？
- ・地域医療ネットワークに参加している施設、組織を明確にして欲しい。
- ・がん相談支援の整備で始めたさなかにナビゲーターもという疑問があります。
- ・研修施設・指導者について厳しい制限があり、参加できないのではと不安をもっている。できる限り参加したいとおもうが
- ・拠点病院に必要かわからない（相談員がいるため）
- ・同じ場所に様々な窓口がある

## 質問

- ・学会として患者家族向の情報（特に診療成績のデータベース化）は考えておられないのでしょうか。
- ・がんナビゲーターの資格を持ち、看護師として働くという立ち位置もあるのか。
- ・看護師をしながらナビゲーターはできるのか。
- ・施設・組織ががん医療ネットワークに参加するにはどうしたいのか
- ・支援センター以外の部署の医療機関の職員にナビゲーター資格が必要なのか。
- ・医療機関以外の場所（居住地域）で活躍するのか。
- ・がん医療ナビゲーターはとても責任のある仕事だと思います。がん患者様やがん患者様を抱える家族は言葉一つでも、ナビゲーションに関することでも、とても気を遣うと思います。何かしらのトラブルになった時やトラブルに巻き込まれた場合、自分自身を守る何かがありますか。
- ・ナビゲーターになった場合、継続教育はありますか。
- ・以前、九州大学の主催だったと思いますが「医療決断サポート」というものがあつたと思います。その様なものとのリンクはお考えでしょうか。
- ・各病院のMSWやがん相談支援員の強化、連携では難しいのでしょうか。
- ・がん患者に特化したものなのでしょうか。（がんでなくても他の病気でも同様の悩みを抱える方もいると思うのですが）
- ・地域住民の方が対象という訳でもなく、ピアでもなくどういった形で具体的に活動をしていくのでしょうか。（例えば、どういう事業所でどういった活動を費用はどこから出るのでしょうか。最終的な責任はどこが、だれがもつのかなど）
- ・情報を提供するという事も役割に入っておりますが、その情報はどこから入手するのでしょうか。その共有方法は
- ・がん相談員はナビゲーターになることはできないのでしょうか。
- ・相談員はナビゲーターの資格をとらないといけないのか
- ・がんナビゲーターの意味が市民にはわからないのではないのでしょうか
- ・がん相談支援センター相談員研修（3）修了者も実地研修が必要でしょうか。免除対象にして頂けないでしょうか。
- ・がんナビゲーターの設置場所は？
- ・e-learning 名の受講方法が未決定なのかもしれませんが情報は個人へ連絡が来るのか・・・など知りたい。
- ・拠点病院の相談支援員はナビゲーターの資格を取った方が良いのでしょうか
- ・研修期間はどの程度ですか。
- ・具体的な日程・時間などの程度かかるのか知りたい。
- ・実際はどこに配置されるかわからない。
- ・ナビゲーターが知り得た情報は医療従事者に共有されないのかー相談を受け、アドバイスするのみ？
- ・資格を取ったあと、今の仕事(薬剤師、病院勤務)と両立できますか
- ・実地研修はその地域でとのことでしたが、現在では、群馬、福岡、熊本で働いている人しか資格は取れないのですか。
- ・もし他県で取れた場合、今の時点ではその資格を活用することはできるのか。

- ・ 実地研修に、時間数はどの位なのでしょう。
- ・ 他県から参加しています。もし他県からこの資格を取りたいときは可能でしょうか。  
また、その時は福岡県で実地研修が可能なのでしょう。
- ・ 精神疾患を持つ患者においての接し方がかなり難しいと思います。またこのような患者は、自分より相談することがないと思います。支援が必要な方への取り込みはどのようにお考えでしょうか。
- ・ 相談支援センターの相談員をしている人が、がん医療ナビゲーターの認定を受けることは意味があるのか。あるのであればどのような意味があるのか。(病院外の地域でがん医療ナビゲーターが活躍することで患者さんの支援につながることはわかったが、病院内でがん医療ナビゲーターがどのような場面で相談にのるのか、あまりそうぞうできない)
- ・ 全くのボランティアとのことでしたがまずは実績を出さないことには・・・ということなのでしょう。常に新しい知識・情報を知っていないといけないし・・・いつかは、見合った賃金になっていくのでしょうか。
- ・ 医師事務作業者をしながらでは無理？仕事としてではなくボランティア？としてとらえて患者会などの方に参加して、そこで活動？するものなのでしょう。
- ・ 全部がボランティアで行う予定なのか。
- ・ 資格を取得した場合、日本癌治療学会が定めてくれると書いてありますが、認定書だけでなく、名刺のようなカードや名札を発行して頂けるのでしょうか。(ピアサポートの方などをかたる方がいると本当にその人でよいのかわからないのではないかと思います。)
- ・ がんナビゲーターはどこで働くのですか。
- ・ 自施設でナビゲーターとして働くのですか。
- ・ 医療行為は出来ないとありましたが、看護師として働けないということですか。(相談の受けている人にだけ医療介入ができないということですか。それともナビゲーターになるともう看護師としては働けないということですか。)
- ・ がん医療ナビゲーターとして、どこで活動していけるのか具体的に教えて頂きたい。
- ・ がん医療ネットワークに入る施設に属するのか、各地域に属するのか個人の登録で活動していくのか？所属についてどうなるのでしょうか。
- ・ 看護師として働いているため業務と両立しながらおこなえるものなのか？看護師業務はもうできなくなるのか？
- ・ がんナビゲーターを語った(悪用)対策はどうするのですか？
- ・ 歯科医師がナビゲーターになる必要があるのか。
- ・ 病院内で地域との連携をはかる→相談支援センタースタッフ？病院以外で地域との連携をはかる→がんナビゲーター？
- ・ 看護師として働きながらがんネットワークナビゲーターとして働くとしたら、相談支援センターのスタッフとして動くことになる？
- ・ 相談支援センターとは別に地域の中のがんナビゲーターとして働く施設ができるのですか？
- ・ 自身がどの拠点病院のエリアに属しているのかわからない。(病院勤務でない為)地域統括ケアシステムの考えると誰でも、一般人でもになるかと思いますが、どのようにしたらよいのでしょうか。(何かで関わりたいのですが。)

- ・情報収集や連携体制など個人差が出てくるように思う。その辺りはどのような形で平均化していくのですか。

#### 研修会について

- ・貴重な研修の機会をありがとうございました。
- ・講義の内容はとても良かったです。ありがとうございました。
- ・貴重な研修会をありがとうございました。
- ・コミュニケーションのデモンストレーションはとてもわかりやすかった。
- ・デモンストレーションは、色々な場面（例えば 保険薬局など）での対応事例も取り上げてほしかった。
- ・デモンストレーションは、非常に勉強になりました。
- ・デモンストレーションがわかりやすかったです。他の講師の先生のお話も理解しやすかったです。
- ・コミュニケーションのデモンストレーションの内容・・何度か受けたような内容でした。
- ・現場でがん患者との関わることが多いので、今回の研修、特にデモンストレーションのコミュニケーションは役立てたいとおもった。
- ・デモでは、現行の相談支援と変わりがないように思えました。誰かに相談したいと思って相談に行ったのに“どなたかにご相談されたいかがですか”という言葉はいかかなものかと思いました。次回は、もう少しナビゲーターとしての専門的なものとなるように期待します。
- ・デモンストレーションの内容や進み方は要検討と思いました。
- ・基本的10のスキルはとても良いのですが、もう少しポイントをおさえた（セリフをもう少し減らしてわかりやすく等）ほうが良いと思います。事前の打ち合わせをしてほしかった。あまり有効でなかった。
- ・デモンストレーションでは2人の会話がよく聞こえなかった。（マイクが必要と考えます）
- ・デモンストレーションの内容は厚生省のがん相談のDVDと重複しています。座ってデモをする場合は本当に説明する必要があります。
- ・デモンストレーションについては、ロールプレーを聞くのではなく参加者がグループに分かれ実践することが必要である。また、患者本人だけでなく、患者家族の相談もおもうので、色々なシチュエーションを想定することが大切である。
- ・現場でがん患者と関わる人が多いので今回の研修、特にデモンストレーションのコミュニケーションは役立てたいと思った。・病棟の看護師をしているので、色々とハードルが高いですが、ご講演ありがとうございました。
- ・前の方には机が準備されていましたが、メモをとるのにやはり机が欲しくなりました。
- ・もっと専門的な内容の研修を受けたい。
- ・本日の研修の企画（内容）大変わかりやすかったです。
- ・日本各地で当研修を実施してほしい。

#### アンケートについて

- ・11, 12の質問に対する答えの選択肢が不適切

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Furuhata T, Hirata K, Wakao F, Okita K, Imamura M, Maehara Y, <u>Nishiyama M.</u>	Questionnaire survey for the development and publication of cancer clinical practice guidelines in Japan.	Int J Clin Oncol.	19(5)	771-778	2014
Tanaka A, Yoshino I, Makino S, Katsumata N, Takahashi K, Kuwano H, Maehara Y, <u>Nishiyama M.</u>	Questionnaire-based survey on chemotherapy-induced anemia.	Int J Clin Oncol.	19(3)	411-420	2014
<u>Nishiyama M.</u>	Cross-boundary cancer studies at the University of Tokyo: Asia as a partner for Japan.	Jpn J Clin Oncol.	44 Suppl 1	i32-37	2014
Sakaguchi I, Motohara T, Saito F, Takaishi K, Fukumatsu Y, Tohya T, Shibata S, Mimori H, Tashiro H, <u>Katabuchi H.</u>	High-dose oral tegafur-uracil maintenance therapy in patients with uterine cervical cancer.	J Gynecol Oncol.	Epub ahead of print 26:e5		2015 Feb 17.
Nakao J, Ohba T, Takaishi K, <u>Katabuchi H.</u>	Omega-3 fatty acids for the treatment of hypertriglyceridemia during the second trimester.	Nutrition	31(2)	409-412	2015

Matsuo Y, Tashiro H, Yanai H, Moriyama T, <u>Katabuchi H.</u>	Clinicopathological heterogeneity in ovarian clear cell adenocarcinoma: a study on individual therapy practice.	Med Mol Morphol.	Epub ahead of print		2014 Nov 15
Sakaguchi I, Ohba T, Ikeda O, Yamashita Y, <u>Katabuchi H.</u>	Embolization for post-partum rupture of ovarian artery aneurysm: Case report and review.	J Obstet Gynaecol Res.	Epub ahead of print		2014 Nov 5
Tohya T, Tajima T, Takeshita Y, Ito K, Kuriwaki K, <u>Katabuchi H.</u>	Case of concurrent benign metastasizing leiomyoma in the lung and retroperitoneum, with a focus on its etiology.	J Obstet Gynaecol Res.	40(8)	2010-2013	2014
Chiga M, Ohmori T, Ohba T, <u>Katabuchi H.</u> , Nishinakamura R.	Preformed Wolffian duct regulates Müllerian duct elongation independently of canonical Wnt signaling or Lhx1 expression.	Int J Dev Biol.	58(9)	663-668	2014
Suzuki H, Komuta M, Bolog A, Yokobori T, Wada S, Araki K, Kubo N, Watanabe A, Tsukagoshi M, <u>Kuwano H.</u>	Relationship between 18-F-fluoro-deoxy-d-glucose uptake and expression of glucose transporter 1 and pyruvate kinase M2 in intrahepatic cholangiocarcinoma.	Dig Liver Dis.	pii: S1590-8658(15)00261-00263. doi: 10.1016/j.dld.2015.03.017.		2015 Mar 27

Yamazaki K, <u>Kuwano H</u> , Ojima H, Otsuji T, Kato T, Shimada K, Hyodo I, Nishina T, Shirao K, Esaki T, Ohishi T, Denda T, Takeuchi M, Boku N.	A randomized phase II study of combination therapy with S-1, oral leucovorin, and oxaliplatin (SOL) and mFOLFOX6 in patients with previously untreated metastatic colorectal cancer.	Cancer Chemother Pharmacol.	75(3)	569- 577	2015
Suto T, Yokobori T, Yajima R, Morita H, Fujii T, Yamaguchi S, Altan B, Tsutsumi S, Asao T, <u>Kuwano H</u> .	MicroRNA-7 expression in colorectal cancer is associated with poor prognosis and regulates cetuximab sensitivity via EGFR regulation.	Carcinogenesis	36(3)	338-345	2015
Miyazaki T, Sohda M, Tanaka N, Suzuki S, Ieta K, Sakai M, Sano A, Yokobori T, Inose T, Nakajima M, Fukuchi M, Ojima H, Kato H, <u>Kuwano H</u> .	Phase I/II study of docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil combination chemoradiotherapy in patients with advanced esophageal cancer.	Cancer Chemother Pharmacol.	75(3)	449-455	2015
Miyazaki T, Ojima H, Fukuchi M, Sakai M, Sohda M, Tanaka N, Suzuki S, Ieta K, Saito K, Sano A, Yokobori T, Inose T, Nakajima M, Kato H, <u>Kuwano H</u> .	Phase II Study of Docetaxel, Nedaplatin, and 5-Fluorouracil Combined Chemotherapy for Advanced Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol.	Epub ahead of print		2015 Feb 18

Shoji H, Motegi M, Osawa K, Okonogi N, Okazaki A, Andou Y, Asao T, <u>Kuwano H</u> , Takahashi T, Ogoshi K.	A novel strategy of radiofrequency hyperthermia (neothermia) in combination with preoperative chemoradiotherapy for the treatment of advanced rectal cancer: a pilot study.	Cancer Med.	doi: 10.1002/cam4.431		2015 Feb 9
Kimura A, Masuda N, Haga N, Ito T, Otsuka K, Takita J, Satomura H, Kumakura Y, Kato H, <u>Kuwano H</u> .	Gastrojejunostomy for pyloric stenosis after acute gastric dilatation due to overeating.	World J Gastroenterol.	21(5)	1670-1674 (doi: 10.3748/wjg.v21.i5.1670.	2015 Feb 7
Fukuchi M, Ishiguro T, Ogata K, Suzuki O, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H, <u>Kuwano H</u> , Mochiki E.	Prognostic Role of Conversion Surgery for Unresectable Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol.	Epub ahead of print		2015 Feb 7
<u>Kuwano H</u> , Nishimura Y, Oyama T, Kato H, Kitagawa Y, Kusano M, Shimada H, Takiuchi H, Toh Y, Doki Y, Naomoto Y, Matsubara H, Miyazaki T, Muto M, Yanagisawa A.	Guidelines for Diagnosis and Treatment of Carcinoma of the Esophagus April 2012 edited by the Japan Esophageal Society.	Esophagus	12	1-30	2015

Ojima H, Sohda M, Ando H, Sano A, Fukai Y, Ogawa A, Mochida Y, <u>Kuwano H.</u>	Relationship between functional end-to-end anastomosis for colon cancer and surgical site infections.	Surg Today	Epub ahead of print		2015 Jan 9.
Watanabe A, Mochiki E, Kimura A, Kogure N, Yanai M, Ogawa A, Toyomasu Y, Ogata K, Ohno T, Suzuki H, <u>Kuwano H.</u>	Nesfatin-1 suppresses gastric contractions and inhibits interdigestive migrating contractions in conscious dogs.	Dig Dis Sci.	Epub ahead of print		2015 Jan 7
Yasui H, Muro K, Shimada Y, Tsuji A, Sameshima S, Baba H, Satoh T, Denda T, Ina K, Nishina T, Yamaguchi K, Esaki T, Tokunaga S, <u>Kuwano H.</u> Boku N, Komatsu Y, Watanabe M, Hyodo I, Morita S, Sugihara K.	A phase 3 non-inferiority study of 5-FU/1-leucovorin/irinotecan (FOLFIRI) versus irinotecan/S-1 (IRIS) as second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer: updated results of	Cancer Res Clin Oncol.	141(1)	153-160 (doi: 10.1007/s00432-014-1783-3.)	2015 Jan
Yajima R, Fujii T, Yanagita Y, Fujisawa T, Miyamoto T, Hirakata T, Tsutsumi S, Iijima M, <u>Kuwano H.</u>	Prognostic value of extracapsular invasion of axillary lymph nodes combined with peritumoral vascular invasion in patients with breast cancer.	Ann Surg Oncol.	22(1)	52-58 (doi: 10.1245/s10434-014-3941-x)	2015 Jan

Ozawa D, Yokobori T, Sohda M, Sakai M, Hara K, Honjo H, Kato H, Miyazaki T, <u>Kuwano H.</u>	TGFBI Expression in Cancer Stromal Cells is Associated with Poor Prognosis and Hematogenous Recurrence in Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Ann Surg Oncol.	Epub ahead of print		2014 Dec 2
Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for Thoracic Surgery, Masuda M, <u>Kuwano H.</u> , Okumura M, Amano J, Arai H, Endo S, Doki Y, Kobayashi J, Motomura N, Nishida H, Saiki Y, Tanaka F, Tanemoto K, Toh Y, Yokomise H.	Thoracic and cardiovascular surgery in Japan during 2012 : annual report by The Japanese Association for Thoracic Surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	62(12)	734-764 (doi: 10.1007/s11748-014-0464-0.)	2014 Dec
Ogata K, Mochiki E, Ojima H, Haga N, Fukuchi M, Aihara R, Ando H, Uchida N, Toyomasu Y, Suzuki M, Kimura A, Kogure N, Yokobori T, Ohno T, <u>Kuwano H.</u>	A multicenter long-term study of imatinib treatment for Japanese patients with unresectable or recurrent gastrointestinal stromal tumors.	J Surg Oncol.	110(8)	942-946 (doi: 10.1002/jso.23773)	2014 Dec

Kogure K, Kojima I, <u>Kuwano H</u> , Matsuzaki T, Yorifuji H, Takata K, Makuuchi M.	Reconfirmation of the anatomy of the left triangular ligament and the appendix fibrosa hepatis in human livers, and its implication in abdominal surgery.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	21(12)	856-863 (doi: 10.1002/ jhbp.144 )	2014 Dec
Ando H, Mochiki E, Ohno T, Yanai M, Toyomasu Y, Ogata K, Tabe Y, Aihara R, Nakabayashi T, Asao T, <u>Kuwano H</u> .	Mechanism of gastrointestinal abnormal motor activity induced by cisplatin in conscious dogs.	World J Gastroenterol.	20(42)	15691-15702	2014 Nov 14
Sumi D, Tsurumoto M, Yoshino Y, Inoue M, Yokobori T, <u>Kuwano H</u> , Himeno S.	High accumulation of arsenic in the esophagus of mice after exposure to arsenite.	Arch Toxicol.		Epub ahead of print	2014 Aug 6
Suzuki H, Fujii T, Asao T, Tsutsumi S, Wada S, Araki K, Kubo N, Watanabe A, Tsukagoshi M, <u>Kuwano H</u> .	Extracapsular lymph node involvement is associated with colorectal liver metastases and impact outcome after	World J Surg.	38(8)	2079-2088 (doi: 10.1007/ s00268-0 14-2488-	2014 Aug
Watanabe A, Suzuki H, Yokobori T, Tsukagoshi M, Altan B, Kubo N, Suzuki S, Araki K, Wada S, Kashiwabara K, Hosouchi Y, <u>Kuwano H</u> .	Stathmin1 regulates p27 expression, proliferation and drug resistance, resulting in poor clinical prognosis in cholangiocarcinoma.	Cancer Sci.	105(6)	690-696 (doi: 10.1111/ cas.1241 7)	2014 Jun

Faried A, Arifin MZ, Ishiuchi S, <u>Kuwano H</u> , Yazawa S.	Enhanced expression of proapoptotic and autophagic proteins involved in the cell death of glioblastoma induced by synthetic glycans.	J Neurosurg.	120(6)	1298-1308 (doi: 10.3171/2014.1.JNS131534)	2014 Jun
Tomizawa K, Usami N, Fukumoto K, Sakakura N, Fukui T, Ito S, Hatooka S, <u>Kuwano H</u> , Mitsudomi T, Sakao Y.	Risk assessment of perioperative mortality after pulmonary resection in patients with primary lung cancer: the 30- or 90-day mortality.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	62(5)	308-313 (doi: 10.1007/s11748-014-0375-0)	2014 May
Yamashita YI, Yoshida Y, Kurihara T, Itoh S, Harimoto N, Ikegami T, Yoshizumi T, Uchiyama H, <u>Shirabe K</u> , Maehara Y.	Surgical results for recurrent hepatocellular carcinoma after curative hepatectomy: Repeat hepatectomy vs. salvage living donor liver transplantation.	Liver Transpl.	Epub ahead of print (doi: 10.1002/lt.24111)		2015 Mar 13
Konishi H, <u>Shirabe K</u> , Nakagawara H, Harimoto N, Yamashita YI, Ikegami T, Yoshizumi T, Soejima Y, Oda Y, Maehara Y.	Suppression of silent information regulator 1 activity in noncancerous tissues of hepatocellular carcinoma: Possible association with non-B non-C hepatitis pathogenesis.	Cancer Sci.	Epub ahead of print (doi: 10.1111/cas.12653)		2015 Mar 3

Asayama Y, Nishie A, Ishigami K, Ushijima Y, Takayama Y, Fujita N, Kubo Y, Aishima S, <u>Shirabe K</u> , Yoshiura T, Honda H.	Distinguishing intrahepatic cholangiocarcinoma from poorly differentiated hepatocellular carcinoma using precontrast and gadoxetic acid-enhanced MRI.	Diagn Interv Radiol.	21(2)	96-104 (doi: 10.5152/dir.2014.13013)	2015
Ninomiya M, <u>Shirabe K</u> , Facciuto ME, Schwartz ME, Florman SS, Yoshizumi T, Harimoto N, Ikegami T, Uchiyama H, Maehara Y.	Comparative study of living and deceased donor liver transplantation as a treatment for hepatocellular carcinoma.	J Am Coll Surg.	220(3)	297-304. e3. (doi: 10.1016/j.jamcollsurg.2014.12.009.)	2015 Mar
Oki E, Emi Y, Kojima H, Higashijima J, Kato T, Miyake Y, Kon M, Ogata Y, Takahashi K, Ishida H, Saeki H, Sakaguchi Y, Yamanaka T, Kono T, Tomita N, Baba H, <u>Shirabe K</u> , Kakeji Y, Maehara Y.	Preventive effect of Goshajinkigan on peripheral neurotoxicity of FOLFOX therapy (GENIUS trial): a placebo-controlled, double-blind, randomized phase III study.	Int J Clin Oncol.		Epub ahead of print	2015 Jan 28
Bae SK, Shimoda S, Ikegami T, Yoshizumi T, Harimoto N, Itoh S, Soejima Y, Uchiyama H, <u>Shirabe K</u> , Maehara Y.	Risk factors for hepatitis B virus recurrence after living donor liver transplantation: A 17-year experience at a single center.	Hepatol Res.		Epub ahead of print (doi: 10.1111/hepr.12489)	2015 Jan 15

Toshima T, Shirabe K, Kurihara T, Itoh S, Harimoto N, Ikegami T, Yoshizumi T, Kawanaka H, Ikeda T, Maehara Y.	Profile of plasma amino acids values as a predictor of sepsis in patients following living donor liver transplantation: Special reference to sarcopenia and postoperative early nutrition.	Hepatol Res.	Epub ahead of print (doi: 10.1111/hepr.12484)		2015 Jan 13
Fujita N, Nishie A, Kubo Y, Asayama Y, Ushijima Y, Takayama Y, Moirita K, Shirabe K, Aishima S, Honda H.	Hepatocellular carcinoma: clinical significance of signal heterogeneity in the hepatobiliary phase of gadoxetic acid-enhanced MR imaging.	Eur Radiol.	25(1)	211-220 (doi: 10.1007/s00330-014-3349-9)	2015 Jan
Matsubara Y, Matsumoto T, Aoyagi Y, Tanaka S, Okadome J, Morisaki K, Shirabe K, Maehara Y.	Sarcopenia is a prognostic factor for overall survival in patients with critical limb ischemia.	J Vasc Surg	Epub ahead of print		2014 Dec 10
Yamashita YI, Imai D, Bekki Y, Kimura K, Matsumoto Y, Nakagawara H, Ikegami T, Yoshizumi T, Shirabe K, Aishima S, Maehara Y.	Surgical Outcomes of Hepatic Resection for Hepatitis B Virus Surface Antigen-Negative and Hepatitis C Virus Antibody-Negative Hepatocellular Carcinoma.	Ann Surg Oncol.	Epub ahead of print		2014 Dec 4

Imai D, Ikegami T, Toshima T, Yoshizumi T, Yamashita Y, Ninomiya M, Harimoto N, Itoh S, Uchiyama H, Shirabe K, Maehara Y.	Preemptive thoracic drainage to eradicate postoperative pulmonary complications after living donor liver transplantation	J Am Coll Surg.	219(6)	1134-1142.e2 (doi: 10.1016/j.jamcollsurg.2014.09.00)	2014 Dec
Yamashita Y, Ikeda T, Kurihara T, Yoshida Y, Takeishi K, Itoh S, Harimoto N, Kawanaka H, Shirabe K, Maehara Y.	Long-term favorable surgical results of laparoscopic hepatic resection for hepatocellular carcinoma in patients with cirrhosis: a single-center experience over a 10-year period.	J Am Coll Surg.	219(6)	1117-1123 (doi: 10.1016/j.jamcollsurg.2014.09.003.)	2014 Dec
Ninomiya M, Aishima S, Yoshizumi T, Ikegami T, Wang H, Harimoto N, Ito S, Uchiyama H, Soejima Y, Kawanaka H, Shirabe K, Maehara Y.	Different histological sequelae of immune-mediated graft dysfunction after interferon treatment in transplanted dual grafts from living donors.	Liver Transpl.	20(12)	1520-1522	2014 Dec
Aishima S, Tanaka Y, Kubo Y, Shirabe K, Maehara Y, Oda Y.	Bile duct adenoma and von Meyenburg complex-like duct arising in hepatitis and cirrhosis: pathogenesis and histological characteristics.	Pathol Int.	64(11)	551-559 (doi: 10.1111/pin.12209)	2014 Nov

Kawanaka H, Akahoshi T, Itoh S, Iguchi T, Harimoto N, Uchiyama H, Yoshizumi T, <u>Shirabe K</u> , Takenaka K, Maehara Y.	Optimizing risk stratification in portal vein thrombosis after splenectomy and its primary prophylaxis with antithrombin III concentrates and danaparoid sodium in liver cirrhosis with portal hypertension.	J Am Coll Surg	219(5)	865-874 (doi: 10.1016/ j.jamcol lsurg.20 14.07.93 9)	2014 Nov
Ijichi H, <u>Shirabe K</u> , Matsumoto Y, Yoshizumi T, Ikegami T, Kayashima H, Morita K, Toshima T, Mano Y, Maehara Y.	Evaluation of graft stiffness using acoustic radiation force impulse imaging after living donor liver transplantation.	Clin Transplant.	28(11)	1256- 1262 (doi: 10.1111/ ctr.1245 7)	2014 Nov
Kubo S, Kinoshita M, Takemura S, Tanaka S, Shinkawa H, Nishioka T, Hamano G, Ito T, Abue M, Aoki M, Nakagawa K, Unno M, Hijioka S, Fujiyoshi T, Shimizu Y, Mizuguchi T, <u>Shirabe K</u> , Nishie A, Oda Y, Takenaka K, Kobarai T, Hisano T, Saiura A, Numao H, Toda M, Kuwaie Y, Nakanuma Y, Endo G.	Characteristics of printing company workers newly diagnosed with occupational cholangiocarcinoma	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	21(11)	809-817 (doi: 10.1002/ jhbp.137 )	2014 Nov